



学校通信 赤坂小だより

令和6年度 第13号 R6.9.13

北九州市立赤坂小学校

校長 大成 清徳

あなたのからだはあなたのもの あなたのこころはあなたのもの ♡大切な自分を守る 『性の健康と権利に関する教室』

◎福岡県では、性暴力根絶条例に基づいて、性暴力を根絶し、被害者も加害者も出さない社会、性暴力を許さず被害者に寄り添う心を共有する社会の実現に向けた取組を進めています。

その一環として、各学校では児童生徒向けの『性の健康と権利に関する教室』が行われており、本校でも去る9月6日(金)の5,6時間目に、5,6年生を対象に実施しました。

<性暴力とは・・・>

◎本人が望まない、同意のない性的な行為や発言を言います。性暴力は、自分の気持ちが尊重されず、自分の体に関することを自分で決める権利が否定される人権侵害です。そして、被害に遭った人や周囲の人に長期にわたって深刻な影響を与えることがあります。

また、周囲の性暴力に対する偏見、無理解等による心ない言動や行動により、被害者がさらなる精神的苦痛を受ける場合(二次被害)もあります。

<学校における取組>

◎福岡県では、性暴力の根絶を目指して、学校等において性暴力根絶等に関する総合的な教育を行う事業を実施しています。また、児童・生徒・学生の発達段階に応じた啓発冊子を作成し、性暴力根絶に向けた教育・啓発を進めています。

<自分と相手を守る透明バリア=「境界線」>

◎当日は、福岡県性暴力対策アドバイザーの茨木湖都美先生をお招きして、右記の動画を使った授業を実施していただきました。その中で、「誰にも自分と相手との間に、自分を守るための透明のバリアがあること」「透明バリアを『境界線』と呼ぶこと」「体や持ち物、気持ちや考え方にも『境界線』があること」「それをこえるときには、お互いの気持ちを確かめて、イヤな時は「イヤ」と言っていること」などを学びました。

また、からだの境界線の中で、体操服で隠れるところは特に大事なところ。 「プライベート・ゾーン」と言って、「見ない、触らない」「見せない、触らせない」という約束があること。お互いの気持ちを確認せずにこの約束を破るのは「性暴力」であることを知りました。

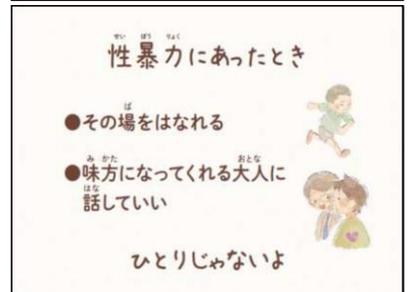
<「境界線がピンチ！」性暴力にあった時は・・・>

大きな声を出して逃げるのができればよいのですが、実際には大人でも難しいことです。子どもであれば、なおさらです。被害にあったとき、そうした行動ができなかった自分を責めてしまうことにもなりかねません。そこで、

◇その場を離れる

◇味方になってくれる大人に話してみる

この2つのことを心がけるようにするとよいでしょう。日ごろから、私たち大人が、子どもたちにとって信頼できる「味方」であることが大切です。性に関することは、低学年のうちから知っておく必要があります。ご家庭でも、自分の体と心を守ることに、折に触れてお話しされてみてください。





はたらく人とわたしたちの暮らし

【3年生】社会科見学

《見学地》①シャボン玉石鹸工場⇒

②高塔山公園⇒③子ども図書館

9月11日(水)、3年生は、社会科学習の一環として、北九州市内にある工場や図書館で働く人の様子を調べる社会科見学に出かけました。3年生にとって、初めての校外学習です。事前の学習をしっかりと行い、張り切って出発です。まず訪れたのは、シャボン玉石鹸工場です。人の体と環境に優しい石鹼が日本国内でこの工場ではしか作られていないこと、世界各国に輸出されていること、人に優しいだけでなく、働く人の健康にも気を配った構造(板張り)であること等を学びました。また、合成洗剤と石鹼洗剤との違いについて、実験を通して見せていただきました。「手間暇かかっても、安全なものを届けたい。」という工場で働く人の自分の仕事に対する熱意に心を打たれました。



高塔山公園では、日差しを避けて展望台下の日陰で、若戸大橋や洞海湾を航行する大きなタンカーなど、北九州の雄大な景色を楽しみながらみんなでお弁当を味わいました。

午後は、小倉北区の子ども図書館を訪れました。誰もが使いやすいバリアフリーの構造に感心するとともに、古くなった本を市民に持って帰ってもらっていることを知り、市民が読書に親しめるための工夫がされていること知りました。子ども図書館の館長さんから、「よい質問だね」と褒められました。たくさんの学びを得た社会科見学でした。帰ってきた子どもたちの顔は、充実感で輝いていました。



☆折尾中校区スマイルミーティング 『いじめ防止』『ネット利用』を考える

○9月5日(木)、折尾中学校の生徒会のみなさんに来校していただき、本校5、6年生の企画集会委員会と合同で、共通のテーマで話し合う中学校区スマイルミーティングが行われました。

今年度の全市統一の議題は、「いじめ防止の取組」や「ゲームやインターネット、スマートフォン(SNSを含む)の適正な使用について」です。この会では、右のイメージ図にあるように、事前に生徒会と児童会で話し合ったことを持ち寄り、中学校区としてどのような具体的な取組を進めていくかを話し合っ



て決めています。今回の話し合いで、赤坂小の意見は以下のようにまとまりました。

「いじめ防止」=プレゼンテーションを含んだ劇を通して啓発する。

「ネット等の適正な使用」=アンケート調査した結果に基づいて、動画等を作成してゲーム、ネット、スマホ等の望ましい使い方を呼びかける。

折尾東小学校でも、同様のテーマで話し合いが行われています。2つの小学校から出された案を持ち寄って、折尾中学校生徒会で練り上げたものを、後日「折尾中学校区での取組」として、小中それぞれで実践していきます。

この事業は、中学校区の連携を深めるとともに、自分たちの身近な問題を解決するために、主体的に活動することを通して、児童生徒の自主性を高めることが主な目的です。5、6年生も、積極的に意見を発表しており、中学生も感心していました。この取組を通して、折尾中学校区の児童生徒全員が、「いじめ」や「ネットの使用」について、自分事としてとらえ、課題解決に向けて進んで実践できるように期待しています。

「(仮称)〇〇中学校区 ふやそう笑顔ミーティング」のイメージ図。

